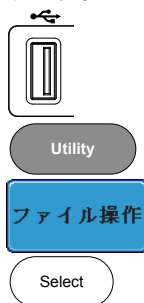


概要

Socket オプションのソフトウェアをインストールすると、LAN 環境の Socket 通信で GDS-3000 シリーズを制御できるようになります。

ソフトウェアのインストール

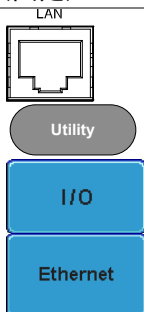
- 手順
1. ZIP 形式で圧縮されて提供されているソフトウェアを解凍し、フォルダごと USB メモリーにコピーします。
ソフトウェア本体のファイル名は*.gz となります。
 2. USB メモリーをフロントパネルの USB ポートに差し込みます。
 3. *Utility* キーを押して、*ファイル操作*を押します。USB メモリー内のフォルダを選択し、*Select* キーを押します。
 4. ソフトウェアモジュールのファイルを選択し、*Select* キーを押してインストールします。



イーサネットインタフェースの設定

イーサネットの設定項目	MAC アドレス	ドメイン名
	機器名	DNS の IP アドレス
	ユーザーパスワード	ゲートウェイ IP アドレス
	機器の IP アドレス	サブネットマスク
		HTTP ポート 80 (固定)

- パネル操作
1. LAN ポートにイーサネットケーブルを接続します。
 2. *Utility* キーを押します。
 3. 下部のメニューから *I/O* を押します。
 4. サイドメニューから *Ethernet* を押します。



5. サイドメニューから On または Off に "DHCP / BOOTP"を設定します。

DHCP/BOOTP
On Off



注意

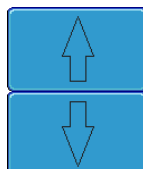
DHCP / BOOTP を On に設定すると IP アドレスは自動的に割り当てられます。Off に設定すると固定 IP アドレスとなります。

MAC Address: 02:51:aa:77:11:16
 Instrument Name:
 User Password: admin
 Instrument IP Address: 172.16.22.149
 Domain Name:
 DNS IP Address: 172.16.1.248
 Gateway IP Address: 172.16.0.254
 Subnet Mask: 255.255.128.0
 HTTP Port: 80

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 .0123456789- _

1. Use the variable knob to select a character.
 2. Press Select to enter the character.

6. 各イーサネット設定項目に移動するにはサイドメニューの上下矢印を使用します。

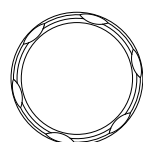


表示項目 MAC アドレス、機器名、ユーザーパスワード、IP アドレス、ドメイン名
 DNS アドレス、ゲートウェイアドレス
 サブネットマスク

注意: HTTP ポートは 80 に固定です。

7. VARIABLE のツマミで、文字を選択し、Selectキーで値を確定します。選択された文字はハイライト表示となります。

VARIABLE



Select

文字を削除するには、Backspace キーを押します。

Back
Space

ソケットサーバーの設定

GDS-3000 は、LAN 経由でクライアント PC やデバイスとの直接の双方向通信のためのソケットサーバー機能をサポートしています。デフォルトでは、ソケットサーバーがオフになっています。

ソケットサーバー 1. GDS-3000 の IP アドレスを設定しま
設定 す。

2. Utility キーを押します。

Utility

3. 下部のメニューから I/O を押します。

I/O

4. サイドメニューから、Socket Server を押します。

Socket
Server

5. Select Port を押し、VARIABLE ツマミでポート番号を選択します。

Select Port

範囲 1024~65535

6. SetPort を押して設定します。

Set Port

7. Current Port アイコンにポート番号が表示されます。

Current Port
11000

8. Server を押してソケットのサーバーを有効にしてください。

Server

On Off

ソケットサーバ機能のチェック

NI 計測とオートメーションエキスプローラ ソケット・サーバーの機能をテストするには、ナショナルインストルメンツの計測・オートメーション・エキスプローラ(MAX)を使用します。このプログラムは、ナショナルインストルメンツのウェブサイトです。(www.ni.com)

操作

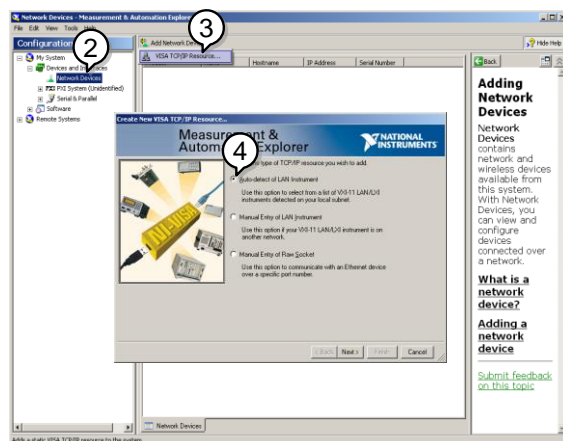
1. NI の Measurement & Automation Explorer (MAX) のプログラムを起動します。



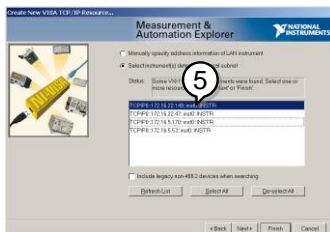
2. Windows の場合は
スタート→プログラム→National Instruments
→Measurement & Automation Explorer で起動します



3. マイシステム→デバイスとインターフェース→ネットワーク
デバイスを右クリックし 新規 VISA TCP/IP リソースを作
成 をクリックします。
4. ポップアップウィンドウから、LAN 機器の自動検出]を選
択すると GDS-3000 は自動的に検出されます。
GDS-3000 が検出されない場合、手動オプションを選択
します。

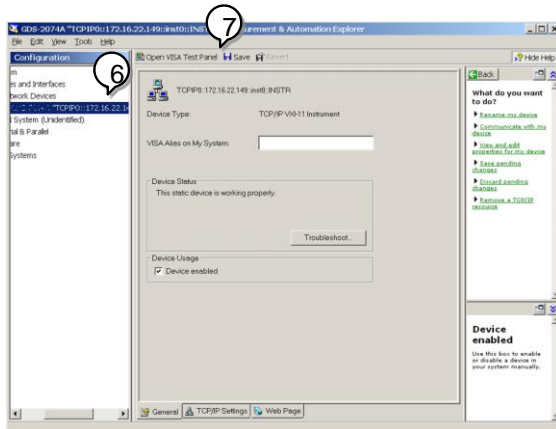


5. GDS-3000 に対応する IP アドレスを選択し、クリックして次へ。

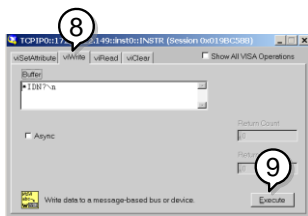


6. GDS-3000 は設定パネルのネットワークデバイスの下に表示されます。
7. GDS-3000 へのリモート・コマンドを送信するためにオープン VISA テストパネルをクリックします。

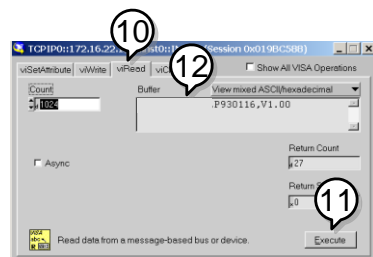
機能チェック



9. viWrite タブをクリックします。* IDN? クエリが既にバッファ領域にあります。実行するクエリを選択し、実行をクリックします。



10. viRead タブをクリックします。
11. * IDN ? クエリからの戻りパラメータを読むには、実行をクリックします。
12. メーカー、モデル番号、シリアル番号、ファームウェアバージョンがバッファに表示されます。



リモートで使用するコマンドにつきましては GDS-3000 Programming Manual を参照してください。